

ADO(Amplatzer Duct Occluder)を用いた動脈管開存症のカテーテル治療を開始しました！

2025 年 4 月 1 日

このたび、当院では動脈管開存症(PDA)に対するカテーテルによる閉鎖栓治療が 2025 年 4 月より施行可能となりました。これにより、手術を必要とせず、より負担の少ない方法で患者様に治療を受けていただけるようになります。

動脈管開存症(PDA)とは？

動脈管開存症(PDA:Patent Ductus Arteriosus)は、出生後に自然に閉じるはずの「動脈管」が開いたままとなる先天性心疾患の一つです。未治療のまま放置すると、将来病変に細菌が付着することで感染性心内膜炎を起こしたり、長期にわたって心臓や肺に負担がかかるため、不整脈、心不全などのリスクが高まる可能性があります。

参考リンク:<https://www.heart-manabu.jp/pda>

カテーテル治療とは？

従来、動脈管開存の治療には外科的手術が必要でしたが、カテーテル治療では開胸せずに治療を行うことができます。足の付け根(鼠径部)の血管から細いカテーテルを挿入し、動脈管を塞ぐデバイスを正確に留置します。

カテーテル治療では長年血管コイルによる治療が行われてきましたが、2004 年より Amplatzer Duct Occluder というメッシュの帽子のような閉鎖栓が日本に導入され、サイズの高い動脈管もカテーテルで閉じられるようになりました。閉鎖栓治療は学会が認めた施設、医師のみができる治療ですが、この度認定医の異動に伴い、施設認定を得られ、当院でも治療が可能になりました。

カテーテル治療の特長

✔ **身体への負担が少ない**: 治療時間は麻酔時間を含めて 2～3 時間です。開胸手術を避けることで、術後の痛みや回復時間を大幅に短縮でき、翌日から歩行も可能です。(傷口は鼠径部に 1～2mm 程度です)

✔ **短期間の入院で治療可能**: 当院では通常、2泊3日で治療完了です(前日入院、治療後翌日退院)。退院後は通常通り生活していただけます。

✔ **専門医による安全な治療**: 経験豊富な小児循環器専門医・カテーテル治療チームが対応します。

✔ **乳児にも対応**: 小さなお子さまへの治療実績もあり、安全性を重視した治療を行います。(ただし、現時点で2.5kg未満の患者様に対する治療は行なっていません)

カテーテル治療のデメリット

✔ **放射線の被曝**: カテーテルや器具の場所を確認するために放射線透視を行います。当科では被曝量の低減の工夫を最大限に行っており、この治療のみで被曝による急性障害が起こる可能性は非常に低いと考えられます。

当院での治療を希望される方へ

当院では、地域の医療機関や紹介医の先生方と連携し、動脈管開存症の診断・適切な治療を提供しております。カテーテル治療をご希望の方、詳しい診察を希望される方は、お気軽にご相談ください。

📞 お問い合わせ・紹介のご連絡

大阪大学医学部附属病院 小児科 循環動態研究グループ

代表 成田 淳

紹介方法: <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/ped/www/medical/index.html>

お子さまの健康のために、最適な治療を提供いたします。